

25 番	長江 秀幸 議員	
項目	令和7年度予算大綱説明と市政運営の基本方針について	項目
	(要旨) 1 本市の経済動向と予算編成について (1) 国、県の経済動向をどのように把握しているのか伺う。 (2) 本市の経済動向をどのように分析し、予算に反映したのか伺う。 (3) 一般会計は、約497億円の予算規模で、前年度比で39億円、率にして約8.5%の増加となっており、過去最大を更新した。市長は、「未来に向け、今必要となる事業の実施に充てている。」などとコメントしているが、総合計画9年目にふさわしい予算編成となっているのか伺う。 (4) 一般会計の歳入予算では、基幹となる市税は、約199億円を計上しており前年度比で約12億円の増加、国、県から交付される交付金や交付税は、合計で約89億円を計上、約4億円の減少を見込んでいるが、企業活動、経済状況、また、昨今の物価高騰などの影響も加味しての確信ある歳入予算となっているのか伺う。 (5) 各事業の財源として、財政調整基金を10億円取り崩すほか、市債を約44億円借り入れるとともに、公共施設等整備基金を約11億円取り崩して、公共施設等総合管理計画に基づく施設整備に活用するが、財源の確保については適正と考えているのか伺う。	(要旨) 2 第6次瀬戸市総合計画の将来像の実現にむけて (1) 令和6年度には、総括に向けた新たな方法として、従来の中期事業計画の策定方法とは異なり、改めて各部署で現時点での事業評価を行い、その評価を踏まえた対話を実施し、補助金や市民サービスの在り方など、見直しに着手したが、厳しい評価だったのか、将来像の実現、市民サービスの向上の加速とはなっていないように思われるがいかがか。 (2) 『学ぶ・育む』の充実に向けて、菱野団地内の小学校を再編し、令和8年4月の開校を目指して、市内初の施設分離型小中一貫校となる「みつば小学校」を整備するほか、あらゆる世代の学びの場として『大人がゆつくり楽しめる。子どもも一緒に楽しめる。』をコンセプトとした図書館のリニューアルを進めるが、令和7年度は特に、『学ぶ・育む』を推進するといった市長の思いがあるのか伺う。 (3) 熱中症対策、南海トラフ地震への備えなど、市民の命と財産を守る、生活環境を守る、本市の豊かな自然を守るといった政策が重要とのことだが、これまでもそのような観点はあり、当然の取り組みと考えるが、あえて『守る』を強調した理由を伺う。

25 番		長江 秀幸 議員	
項目		項目	
(要旨) (4) SDGsの推進については、職員向けの研修、SDGsの達成を意識した事業の実施、行政と市民、事業者が同じ方向を向いて取り組むためのビジョンの共有に取り組んできているがその成果はどのようなものか伺う。 (5) 予算大綱説明では、カーボンニュートラル、脱炭素、水素・アンモニアの社会実装、地球温暖化対策、ゼロエミッション自動車の普及加速などについての発言がなかった。それぞれ重要な取組だと考えるが見解を伺う。 3 都市像①「活力ある地域経済と豊かな暮らしを実感できるまち」について (1)「地域産業の振興と人材の活躍促進」について ① 令和4年度に立地促進奨励金の指定を受けた事業者は5社、再投資促進助成金の認定を受けた事業者は2社であったが、その後の操業の実績と今後の取組について伺う。 ② 新たな企業誘致については、昨年伺ったところ、IT・スタートアップ企業等に対する助成をこれまで2社、3事業所を指定。また、マッチングリストについては、一昨年末時点で24が登録などの実績があった。その後のインキュベーション施設との連携、マッチングリストの登録事業者の拡大についての状況について伺う。		(要旨) ③ 市内企業のデジタル化については、産業支援センターせとのコーディネーターによるSNS活用支援は、令和4年度の相談件数5件、テレワーク導入補助金を活用した事業者は3社で、一定の働き方改革、業務の効率化が進んでいる。業務効率化ITツールの導入支援にも取り組んでいるがデジタル化の状況について伺う。 ④ 農業振興について、地域農業維持のための指針となる地域計画の策定状況を伺うとともに、地元野菜の需給サイクルを高めるための新商品開発促進の状況、既存事業の取組について伺う。 (2)「年齢や性別にかかわらず、働くことや起業・創業に挑戦できるまちづくり」について ① ツクリテ同士の交流機会の創出や販路開拓、ツクリテが連携して取り組む自主的な活動を支援し、ツクリテの定住定着といった課題解決に取り組んでいるが、その取組の成果はどのようなものか伺う。 (3)「地域経済の活性化につながる地域資源を活かしたシティプロモーションの展開」について ①「日本遺産のまち」ならではの特色ある有形・無形の財産を最大限に活かし、さらなる観光誘客と地域経済の活性化につなげていくということだが、インバウンド対策については、どのように取り組んでいくのか伺う。	

25番		長江 秀幸 議員	
項目		項目	
(要旨) ② シティプロモーション動画をSNSやホームページ等において積極的に活用し、本市の認知度の拡大に取り組んでいるが、その成果はどのようなか伺う。 ③ ふるさと納税の推進については、市内の推進体制を強化するとともに、地域経済や地場産業の活性化につながるよう返礼品の充実等に取り組むなど推進しているが、その成果と今後の展開について伺う。 ④ 県が主催する愛知万博20周年記念事業と連携し、「集まれ！あいちの魅力博。」にブースを出展するとともに、市民や団体等が企画・実施する、万博理念の継承や交流の促進に資する事業に対し助成を行うが、2005年愛・地球博当時の賑わいをイメージしているのか伺う。 ⑤ 国際芸術祭「あいち2025」を本市のまちなかで展開するが、どのような目標をもって賑わいの創出に取り組んでいくのか伺う。 (4)「市民生活の利便性を高め、企業活動の活性化につながる都市基盤の整備」について ① 幡中南菱野線整備については、南進方向への道路築造工や排水工などを行い、令和8年度の完了を目指し、整備を進めているが順調に進捗しているのか伺う。		(要旨) ② 行政手続きのオンライン化については、鋭意拡大に取り組んでいる。その利用手続きの拡大・拡充の状況と利用促進に向けた周知・啓発の状況について伺う。 ③ バーチャル瀬戸については、リニューアルをし、進化をしている。企業ブースの展開をし、参加事業者等の公募による商業観光振興を進めるとのことであったが、その後の状況と今後の展開について伺う。 ④ ICT戦略推進プランに基づき、これまでも生活の利便性向上やスマート自治体の実現に向けて取り組んできているが、実際に市民の利便性の向上、市民サービスの向上につながっているのか伺う。また、AIを活用した総合案内サービス（チャットボット）の運用や、より市民が利用しやすい「LINE公式アカウント」による情報発信にも取り組むとしているが、2つの市民サービスセンターを廃止する中、さらなる市民サービスの向上を実現できるのか伺う。	

25 番	長江 秀幸 議員	
項目		項目
	(要旨) 4 都市像②「安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち」について (1)「ライフステージに応じた切れ目のない子ども・子育て支援」について ① ヤングケアラーやひきこもり等の支援については、教育機関・地域との連携による取組で早期発見できているのか伺う。また、当事者からの直接相談が極めて少なくこれをいかに把握するかが課題としているが、課題解決に向けた取組の状況はどのようなか伺う。 ② 「こども若者家庭センター」を新たに新設し取り組むが、新体制でさらなる相談支援の拡充となるのか伺う。 ③ 改訂される「第2次瀬戸市子ども総合計画」に基づき、様々な事業が行われるが、主役である子ども・若者本人に実施したアンケートの分析結果、こども大綱等の内容や子ども・若者会議の意見は十分計画に反映されているのか伺う。 ④ 小中学校の給食費の無償化について、文部科学省の調査では、公立小中学校で条件を設けずに給食を無償提供する自治体が2023年9月時点で547(30.5%)に上がることが判明。2017年度に行った同様の調査では76自治体(4.4%)であり、約6年で7倍超になった。このような状況を市長はどのように捉え、今後取り組んでいくのか伺う。	(要旨) (2)「瀬戸で学び、瀬戸で育ててよかったと思える教育の実現」について ① 令和8年4月の開校を目指す「みつば小学校」においては、本市独自の教科の新設に向けた準備を進めている。多言語でのコミュニケーション活動、校区内にある瀬戸特別支援学校との交流、身近な地域に関する学習やキャリア教育、瀬戸市の将来像の設計や提言といった探求的な学びを通じて、児童生徒の資質・能力を育成していくとのことだが、その準備状況、変更の有無はどのようなか伺う。 ② 小中学校の体育館について、避難場所の強化と耐災害性の向上を図り、子どもたちや災害時避難者の安心・安全な環境を確保するため、空調の設置と屋根・外壁の断熱化に取り組むが、どのようなスケジュールでの取組になるのか伺う。 ③ 多くの子どもにとって学校こそが居場所となるべきであることを踏まえ、令和5年度から中学校内に福祉的機能を備えた居場所として「せと“ここ”ほっとルーム」の設置を進めており、学校に足が向かなかった生徒が、毎日のように居場所で過ごすことができるようになるなど、成果が現われてきているとのことだが、今後もさらに体制の強化を図っていくのか伺う。

25 番	長江 秀幸 議員	
項目		項目
	(要旨) (3)「多世代が子育てに関わることのできるまちづくり」について ① コミュニティスクールについては、共有した学校教育目標の実現に向け、地域の特徴を生かした取組を実施しているが、その成果は具体的に現われてきているのか伺う。 (4)「都市基盤整備による居住環境の魅力向上と未来に向けた良好な環境の継承」について ① 歩道整備については、品野曽野線において令和6年度整備が完了しており取組が進んでいるが、今後の通学路等の整備内容について伺う。 ② 中水野駅地区区画整理については、愛知環状鉄道中水野駅周辺を、都市施設整備と居住機能や子育て支援機能、商業施設などの新たな都市機能の誘導を図り、水野地域の拠点として整備するが、今後のスケジュールについて伺う。	5 都市像③「地域に住まう市民が自立し支え合い、笑顔あふれるまち」について (1)「誰もがいきいきと、健康に暮らすことができるまちづくり」について ① 本市は、HPVワクチン接種の取組については、個別通知などの対応で鋭意取り組んでいる。HPVワクチンの経過措置については、令和7年3月31日までにワクチンを1回以上接種した方は、令和7年4月以降も残りの接種を公費で受けられることになったが、本市の周知はどのようになっているのか伺う ② 本市は、令和4年度7月からアピアランスケア支援事業として医療用のウィッグ・乳房補正具の費用を2万円を上限とし、補助対象額2分の1を乗じた額を助成している。令和4年度は、医療用ウィッグ32件、乳房補正具7件。令和5年度は、医療用ウィッグ49件、乳房補正具13件と一定の効果をあげている。現在、その治療によって失われた顔の一部を再現する「エピテーゼ」の追加を愛知県は検討していると同う。「エピテーゼ」はシリコン素材を使って、顔の欠けた部分を再現する技術で、がん治療による外見の変化を補うアピアランスケアに欠かせない。本市としても、積極的に検討していくべきと考えるがいかがか。

25 番		長江 秀幸 議員	
項目		項目	
(要旨) (2)「高齢者が生きがいを持って活躍し、支え合いにより、安心して暮らせるまちづくり」について ① 高齢者の移動支援事業のモデル地域については、地域との協働により事業を実施しており、新たなモデル地区についても、地域のニーズに沿った支援内容により展開しているとのことだが、どのような支援内容なのか、また、今後の展開についても伺う。 ② 認知症の方やその家族への支援については、認知症初期集中支援チームと認知症地域支援推進員が連携し、認知症の方やその家族と関係機関をつなぐ役割を果たしているが、認知症の方が今後増えることが想定される中、取組の強化が必要と考えるが見解を伺う。 (3)「誰もが自立し、地域で支え合いながら生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり」について ① 「障がい者相談支援センター」については、相談件数が伸びていると伺うが、どのように対応していくのか伺う。 ② 菱野団地中央広場の改修・整備により大学生や子どもたちとともに作業を行うことで、地域への愛着形成や多世代が交流できる空間づくりにつながったとのことだが、中央広場の活用状況、地域住民の反応はどのようなか伺う。		(4)「地域の生活環境の向上と安全・安心な地域づくり」について ① 燃えるごみの減量とリサイクルの推進のために、資源物を回収する臨時拠点(リサイクルステーション)を6か所設置した。まだ、開設したばかりだが、利用状況、効果はどのようなか伺う。 ② 令和7年度から名古屋市等との消防指令業務共同運用を開始し、新たな地域間の連携・協力体制を構築し、消防力の強化を図るが、具体的にどのように消防力が強化されるのか伺う。 ③ 消防本部建て替えについて市長は、「財政的な課題がある中、改修でしばらく対応できるという判断。しっかり考え、よりよい新庁舎を造りたい。」などとコメントしているが、改修では補えない面も多分にあると考えるが、改めて市長の見解を伺う。 (5)「誰もが生涯にわたって学び、郷土に対する誇りと愛着を深める豊かな地域づくり」について ① 図書館本館のリニューアルをはじめ、地域における多様な文化・芸術活動や生涯学習の場や機会を充実させ、市民の郷土に対する誇りと愛着を深める取組を進めるが、地道な取組になると考えるが。今後、やきもの文化・伝統、豊かな自然環境という財産をどのように活かしていくのか伺う。 ② 最新の市史陶磁編は、市制100周年となる令和11年度の発刊を予定しており、市史編纂で得られた知見や情報等を市民に広く伝えていくことで、郷土愛の醸成につなげていくとしているが、どのように市民に伝えていくのか伺う。	

25番		長江 秀幸		議員				
項目					項目			
(要旨)	6 真に効果のある障害者施策の実施について (1) 瀬戸市障害者地域自立支援委員会から出された意見を基に、障害者や支援者のニーズを踏まえ、全庁を挙げて事業を実施している。引き続き、真に効果のある障害者施策を着実に実施することで、本市の福祉が増進し、障害理解が深まり、障害者にとって暮らしやすい地域を目指していくなどとしているが、障害者や支援者のニーズに十分対応できているのか伺う。 7 水道事業・下水道事業について (1) 水道事業については、災害に強く、安全で安心な水の安定した供給と有収率の向上を図るため、老朽管の布設替や施設及び管路の更新事業を進める。下水道事業については、公共下水道事業計画に基づき、西部浄化センターにおける水処理施設整備事業と下水道管渠整備事業に取り組むとともに、耐震対策と施設更新を進めるが、両事業の具体的事業内容を伺う。また、経営面で課題解決の必要があるが現時点での検討状況を伺う。				(要旨)			